

あり方懇談会からの提案

平成17年度に、「総合的な交通体系のあり方懇談会（あり方懇談会）」を開催し、初めに地域住民の公共交通に対する真のニーズを見極めるために、4地域で地域懇談会を実施しました。最寄り駅への交通手段や買い物の足の確保、公立昭和病院、市役所周辺施設までのアクセスなどが各地域のニーズとして集約され、検討した結果を考え合わせ、平成18年3月、「あり方懇談会」から市に対して次のような提案をいただきました。

①「青梅街道幹線軸」について

- 青梅街道沿いは、各地域共通に行きたいと要望している市役所周辺地域、公立昭和病院、駅などが集中していることから、小平市の東西の幹線軸ととらえる
- 短い距離で地域内を青梅街道幹線軸に結びつけることで、各地域のサービスレベルを上げることが可能である
- 幹線にふさわしいサービスレベルを現行の都営バスに加えて民間バス路線で確保する

- 市内の全域をカバーする「大循環型」の路線とする意見をいただきましたが、長時間の運行になり、市内の道路事情などから定時性の確保が見込めないこと、本数が少なくなり、目的地まで時間がかかることなどから非効率と判断される



市長への報告

②「青梅街道幹線軸」へのアクセスについて

- 幹線軸へのアクセスは、既存の路線バス、「にじバス」を利用する地域や、乗合タクシーを利用する地域もある
- さまざまなアクセス形態から、地域にいちばん適した形態・路線を地域住民とともに検討する

③料金体系について

- 運賃は民間バスの運賃をモデルにし、財政負担の範囲と事業を継続していくための両面から料金を設定する

④市民が支える公共交通を目指して

- すべてを税金で賄うことや、運行経費から収入を引いた赤字分を税金で賄うことは限界があるので、何らかの形で地域がかかわり、地域の交通を確保するための地域の支えを求める

⑤にじバスの路線と運賃の見直し

- 市民の要望の多い市役所への接続、当初計画のとおり鷹の台駅までの接続などの路線見直しを再検討する必要がある
- 利用者が多く、効果的なサービスができていない反面、財政的負担が多く、既存路線バスに比較的近い運行路線であるので、路線および運賃についての再検討が必要である

「総合的な交通体系のあり方懇談会」は、将来の公共交通のあり方を検討するため、学識経験者、国土交通省、警視庁、民間バス・タクシー事業者、市民公募委員の計9人からなる懇談会です。5回の検討を行ったほか、地域懇談会を4つの地域でそれぞれ3回、計12回開催し、報告書が提出されました。

あり方懇談会の経過

回数	懇談の内容
第1回 平成17年6月28日	・小平市の公共交通について ・各地域の公共交通の課題について
第2回 8月24日	・第1回地域懇談会の報告(意見・要望) ・各地域における公共交通の課題 ・今後の方針
第3回 10月18日	・第2回地域懇談会の報告 ・各地域の交通課題の解決策について
第4回 12月27日	・第3回地域懇談会の報告 ・青梅街道幹線軸について ・各地域の交通課題の解決策について
第5回 平成18年2月2日	・小平市総合的な交通体系のあり方懇談会報告書(案)について

総合的な交通体系のあり方懇談会委員 (敬称略、平成18年3月現在)

鈴木 文彦	交通ジャーナリスト(会長)
澤田 孝秋	国土交通省関東運輸局
本庄千代子	小平警察署交通課長 (前任者：岡部 和男)
神山 理一	西武バス株式会社
真鍋 武	美玉交通株式会社 (前任者：真鍋 重治)
高橋 学	市民公募
小森 章	市民公募
富田 早苗	市民公募
楠脇 厚子	市民公募

地域懇談会の経過

回数	懇談の内容
第1回 平成17年7月	・地域の交通課題について ・地域の交通課題の解決策について
第2回 9月	・地域の交通課題の解決策について
第3回 11月	・青梅街道幹線軸について提案 ・地域の交通課題の解決策について

市の公共交通に対する基本的な考え方(案)について、あなたのご意見をご記入ください。

のりしろ

のりしろ

市の基本的な考え方(案)に対する、皆さんの率直なご意見を左の用紙でお寄せください(9月22日(金)までお願いします)。

ご意見は、このほか、ファクシミリ、電子メールでも受け付けています。



送付先

都市開発部まちづくり課

FAX

042 (346) 9513

電子メール

machi@city.kodaira.lg.jp

のりしろ

のりしろ

のりしろ